

話の聴き方

自分の聞き方チェック

↓
「聴く」+「訊く」を目指す

聞く・聴く・訊くの違い

聞く = 音・声を耳で感じとること (Hear)

聴く = 注意して耳にとめる。傾聴する (Listen)

訊く = 質問する・問う (Ask)

傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)

レベル1 ▶ 相手が話しやすい環境をつくることができない。

レベル2 ▶ 相手が話しやすい環境を意識的につくることができる。

レベル3 ▶ 話を聴いた上で、理解することができる。

レベル4 ▶ 話の内容を深く理解し、わからない部分を質問したり、ディスカッションしたりすることができる。

レベル5 ▶ 話の本質 (相手が伝えたいこと) や流れを即座に理解し、適切なタイミングで質問ができる。相手に同意した上で、自分の意見を論拠とともに伝えることができる。

「聴き方」の基本姿勢

- ▶ うなずく、相づちを打つ。
- ▶ 目を合わせる努力をする。

話の上手な聞き方

- ▶ 相手の目を見る。
- ▶ 話している相手に体を向ける。
- ▶ 話している相手に、「聞いています」と合図 (サイン) を送る。
- ▶ メモを取る。
※人は忘れてしまう。大事なこと (忘れてはいけないこと) はメモを取ろう。
- ▶ 背筋を伸ばして聞く。

相づちを打つという。

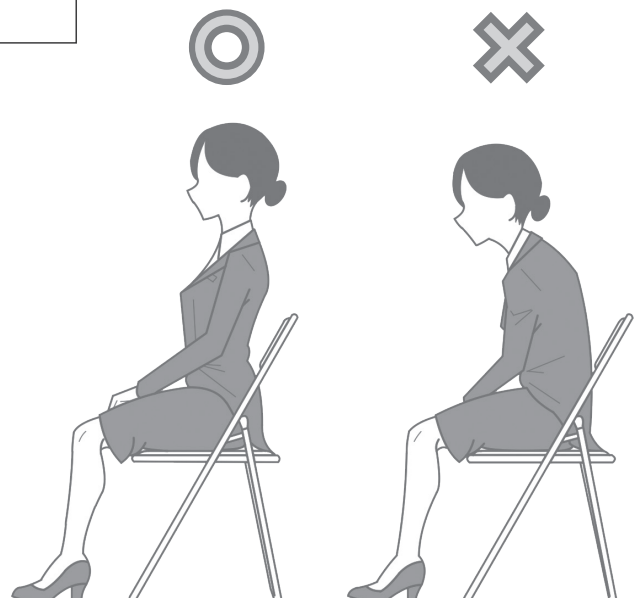


イラスト / 千葉七衣

学生時代に力を入れたことを書く

🍷 書く要素を知る

よくある質問

「自己PR」と「学生時代に力を入れたこと(学チカ)」は、どう書き分けたいのか?

- ▶ 何を書くのか、明確なルールやセオリーはない。
- ▶ どう書き分けるのか、自分で方向性を決めるしかない。
 - 企業に対して、「何をアピールするのか」を考えることが大切。

🍷 企業は選考を通して、活躍してくれそうな人を探している

- ▶ 社内外で成果を出せそうな人。
- ▶ 利益を伸ばしてくれそうな人。
- ▶ 事業や会社の将来を担ってくれそうな人。

🍷 何を書けばいいのか(結果よりもプロセス)

- ▶ 事実(経験)の羅列では、「あなたらしさ」は伝わらない。
- ▶ 「あなたらしさ」を表現する。
 - 同じ経験をして、感じたこと、思う・考えたことは違う。



🍷 行動の動機や根拠を大切に書く

- ▶ 何を頑張ったのかを伝えるだけではない。
- ▶ 何に価値を見いだしたのか。
- ▶ 何を思ってその行動をしたのか。
- ▶ 自分の内側にあるものを具体的に表現する。